

第25回未来医療セミナー

演題：実験動物のクローン研究の現状について

演者：独立行政法人理化学研究所

バイオリソースセンター

遺伝工学基盤技術室 室長

小倉 淳郎 先生

《要旨》

家畜に比べて、実験動物における体細胞クローン産子の作出効率は極めて低い。そのような困難な中で実験動物のクローンを行う目的の一つは、発生学や分子遺伝学研究のユニークなモデルとしての利用である。特にマウスは、その遺伝学的背景が一定しており、かつゲノムと遺伝子に関わる情報が圧倒的に豊富であることから、信頼性の高い実験結果が得やすく、またその解析も比較的容易である。ウサギやラットでは、実用的なES細胞がないために、主にジーンターゲットイング動物を作出する目的でクローン技術の開発が行われている。しかしこれらの動物では新鮮細胞でさえ、クローンの作出がきわめて難しい。最もヒトに近いサルの体細胞クローンは、再生医療用の核移植ES細胞作出のモデル実験として期待されているが、クローン胚の発生が非常に悪い。難しいことばかりの実験動物における体細胞クローンの現状であるが、その中での研究者の努力と今後の可能性について解説したい。

日 時：2006年10月25日(水) 18:00より

場 所：大阪大学医学部附属病院外来棟4階 第1カンファレンス室

連絡先：未来医療交流会(大阪大学医学部附属病院未来医療センター内)

Tel：06-6879-6557/6552, Fax：06-6879-6538

E-mail: koryukai@hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp

協 賛：21世紀COE「細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成」

-Center for Integrated Cell and Tissue Regulation-